

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県の河川におけるポリオキシエチレンアルキルエーテルの実態調査
発表学会名	第57回日本水環境学会年会
発表者名	大野木 卓（環境部）
開催場所	愛媛大学城北キャンパス（愛媛県松山市）
発表日時	令和5年3月16日（木） 10:45～12:15
発表内容	ポリオキシエチレンアルキルエーテル（以下、「AE」という）は界面活性剤であり、洗剤や乳化剤、分散剤等として用いられている。AEは、環境省の化学物質の環境リスク初期評価において水生生物への影響が懸念され、詳細な評価を行う候補物質とされている。また、福井県の公共用水域へのPRTR届出排出量(全業種(2020年))は全国2位と多くなっているが、県内の河川におけるAEの実態は把握されていない。そこで、県内の主要河川で実態調査を行った。 県内の主要な25河川30地点を対象に夏季、秋季に各1回調査を実施したところ、いずれもすべての地点でAEが検出され、その排出源が県内に広く分布すると推察された。検出濃度は河川により異なり、市街地を流下する中小河川末端でより高い値を示す傾向がみられた。また、夏季・秋季の変動も河川により異なっていた。このことから、これら中小河川流域における排出源の存在と各河川への排出状況の違いが示唆された。このため、当該河川上下流で追加調査を行い、下流部での濃度上昇から市街地域でAEが河川に流入していることが確認された。 今後、詳細調査を継続し発生源等解明に取り組んでいく。